

令和7年10月1日

宮崎大学

No.38

発行
宮崎大学工学部
化学会

工学部化学会会報

〒889-2192 宮崎市学園
木花台西1丁目1番地
TEL(0985)58-7390(菅本)
FAX(0985)58-7323



改修工事で新しくなった学生実験室



学生実験風景

CONTENTS

- ごあいさつ・・・・・・・・・・2
- 本部から・・・・・・・・・・2
- 支部だより・・・・・・・・・・6
- 特集故塩盛先生を偲ぶ・・・・・・・・10
- 応用物質化学プログラムだより・・・・・・・・12
- 新みやざきはいま・・・・20

ごあいさつ



会長

日高宗徳

(59 年卒)

新緑の候、皆さまにおかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素より宮崎大学工学部化学会の活動に対し、温かいご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、宮崎大学工学部は霧島キャンパスから木花キャンパスへ移転してから、早くも 39 年近くが経過しました。現在では木花キャンパスしか知らない方も多くなってきたのではないのでしょうか。霧島キャンパスは、現在 JA AZM ホールがある場所に位置しており、木造、プレハブ、鉄筋コンクリートの建物が混在する学舎でした。工業化学科は木造の建物にあり、学生たちは大学に泊まり込みで実験を行ったり、時には授業を抜け出して遊びに出かけたりと、昭和らしい自由で活気ある雰囲気がありました。

昨年放送された TBS ドラマ「不適切にも程がある」はちょうど木花キャンパスへの移転時期と重なる時代背景であり、懐かしさを感じながらご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

昨年 10 月 26 日には、ホテルニューウェルシティ宮崎にて「工学部創立 80 周年記念化学会大同窓会」を開催いたしました。木島先生、保田先生をはじめ、現役の先生方、化学会の皆様、学生の皆様など、多くの方々にご参加いただき、盛大に執り行うことができました。同窓会では旧キャンパ

スを含む写真を集めた映像も放映され、参加者の皆様と懐かしい思い出を共有することができました。なお、この映像は宮崎大学化学会の Facebook に掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

また、昨年は各支部同窓会でも飲み会が再開されました。久々の開催ということもあり、体調管理や異動などの事情で、参加者数はコロナ禍前には戻っていない状況とのことです。

2025 年の化学会では、引き続き同窓会活動を通じて親睦を深め、参加しやすい環境づくりに努めてまいります。心地よい同窓会の輪を広げていけるよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。

先日、化学会設立時にご尽力いただいた河野恵宣先生のお宅を訪問し、貴重なお話を伺いました。先生はご退官から 17 年が経過されたのですが、卒業研究の学生のことを今でもよく覚えていらっしゃいました。今回の会報が 38 号となることから、「40 号では記念の会ができれば良いね」とのご提案もいただきました。化学会 40 周年記念の同窓会を企画したいと考えております。

今後も化学会の活動を支えるのは、皆様一人ひとりのご理解とご参加です。お忙しい中ではありますが、それぞれの形でご関心を寄せていただき、この同窓会が「懐かしさ」を超えた「未来の資産」となるよう、共に育てていければ幸いです。

結びに、皆さまのご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

本 部 か ら

理 事 会 報 告

化学会会報をお届けするのが非常に遅くなりましたこと誠に申し訳ありません。

さて、令和 6 年度の理事会は宮崎大学まちなか・キャンパスで、今年も Zoom を用いた遠隔参加も可能とし、令和 6 年 12 月 7 日（土）に開催されました。会の開催に先立ち日高新会長以下役員 7 名の参加と 18 名分の委

任状により、本会が成立することが報告された後、(1)令和 5 年度事業報告、(2)令和 5 年度会計報告、(3)令和 6 年度事業計画（案）と会報 No.38 の編集案、(4)令和 6 年度予算、(5)役員の改選について、(6)その他、について審議されました。

令和 5 年度の本部事業は本部理事会が第 10 回宮崎大学卒業生の集い「ホームカミングデイ」と同日の令和 5 年 11 月 11 日（土）に宮崎大学工学部大会議室

で開催され、当日の夜には懇親会も開催されたことが報告されました。工学部同窓会の行事として工学部同窓会卒業・修了祝賀会への日高会長の出席（2024/3/22）をはじめ、工学部同窓会（2023/7/1）、関東工学部会（2023/6/10）、関西工学部会（2023/10/21）、中部工学部会（2023/10/22）、北部九州工学部会（2023/11/25）、工学部同窓会主催県内企業OB・OG交流会の開催（2023/12/8）が報告されました。さらに、「ホームカミングデイ」で化学会会員が9名参加したことが報告されました。会計報告では、令和5年度は会報が発行されていないことから会費収入が減り、支出もほとんどなかったことが報告され、承認されました。令和6年度事業計画（案）では工学部創立80周年記念化学大同窓会が令和6年10月26日（土）にホテルニューウェルシティ宮崎で開催され、参加者62名で盛会であったことが報告されました。会報No.36,37号の合併号はまだ諸事情により発行できておらず、発送は令和7年になることが報告されました。工学部同窓会関連の行事では、関西工学部会新入社員歓迎会（2024/4/20）工学部同窓会（2024/5/18）、関東工学部会（2024/6/15）、関西工学部会（2024/10/19）、中部工学部会（2024/10/20）、北部九州工学部会（2024/11/23）が既に開催されており、工学部同窓会主催県内企業OB・OG交流会の開催（2024/12/20）が報告されました。さらに、会報No.38の編集案と令和6年度の予算（案）の説明があり、承認されました。その他として、工学部創立80周年記念化学大同窓会の総括およびSNS化の状況と今後の展開案、今後の同窓会イベントの計画について、日高会長から説明があり意見交換がなされました。役員改選では宮崎支部長の交代により、これまで宮崎支部長をされていた昭和45年卒の黒木幸

英氏が新たに常任理事に加わったことが報告されました。長年宮崎支部長としてご尽力いただきました黒木氏に感謝を申し上げます。また、新理事長について常任理事の平成3年卒業の菅本和寛氏が推薦され、今後会長を含め事務局で調整していくことで了承されました。

以上が令和6年度理事会報告となりますが、今回も理事長に代わって事務局長の宮武が代筆させていただきました。会報No.39からは新理事長から寄稿いただけたと思います。

最後に訃報をお伝えいたします。化学会の初代会長で現在顧問の昭和22年卒業の日高兵馬氏が令和7年7月17日にご逝去されました。日高氏におかれましては、化学会同窓会の立ち上げからご尽力いただき長い間化学会を支えてくださいました。心よりご冥福をお祈りいたします。

なお、化学会のホームページ(<http://www.web-dousoukai.com/kagakukai/>)および工学部同窓会の名簿システムの登録および活用をお願いいたします。各種行事の日程確認、住所情報の更新、会費納入状況、会員相互の連絡などが行えます。郵便、電話、FAX、電子メールなどによる住所変更も受け付けております。会員名簿のより一層の整備にご協力をお願いいたします。登録方法が分からない場合は、工学部同窓会事務局または化学会事務局にご連絡ください。また、Facebookに化学会会員の情報交換の場として、宮崎大学化学会のプライベート・グループを開設いたしました。Facebookで、「宮崎大学化学会」でグループを検索するか、URL(<https://www.facebook.com/groups/329041939877936/>)に直接アクセスして参加の登録をお願い致します。



宮崎大学工学部化学会(本部)令和5年度会計報告

令和5年4月1日～令和6年3月31日

収入の部		支出の部	
科 目	金 額(円)	科 目	金 額(円)
前年繰越	524,826	No.36,37会報発行	0
本部会費	200,682	会議費	0
		事務費他	567
		支出合計	567
		翌年度繰越	724,941
合 計	725,508	合 計	725,508

第1条 本会は、宮崎大学工学部化学会と称し、本部を宮崎大学工学部に置く。また必要に応じ、支部を置くことができる。

第2条 本会は、会員相互の親睦をはかり、会員ならびに宮崎大学工学部環境応用化学科の発展を期することを目的とする。

第3条 本会は、次の会員をもって組織する。

1. 正会員

宮崎工業専門学校化学工業科卒業生

宮崎大学工学部

工業化学科卒業生

物質工学科応用化学コース卒業生

物質環境化学科卒業生

環境応用化学科卒業生

宮崎大学大学院工学研究科

工業化学専攻修了者

物質工学専攻応用化学系修了者

物質環境化学専攻修了者

工学専攻環境系コース応用化学分野修了者

物質エネルギー工学専攻応用化学系修了者

宮崎大学大学院農学工学総合研究科

化学関係専攻・コース修了者

2. 学生会員

宮崎大学工学部

工学科応用物質化学プログラム学生

環境応用化学科学生

宮崎大学大学院工学研究科

工学専攻環境系コース応用化学分野学生

3. 特別会員

宮崎大学工学部工業化学科、物質工学科

応用化学コース、物質環境化学科、

環境応用化学科、応用物質化学プログラム担当

関係教職員

第4条 本会本部に次の役員を置く。

1. 会 長（1名）
2. 副会長（5名）
3. 理事長（1名）
4. 事務局長（1名）
5. 常任理事（30名以上）
6. 理 事（各支部代表者）
7. 会 計（1名）
8. 監 査（2名）
9. 顧 問（若干名）

第5条 役員は、次の方法により定める。

1. 会長、副会長は、会員の推薦により理事会で承認する。

2. 常任理事は、会員の推薦により、会長が委嘱する。
3. 理事は、各支部より選出された支部長とする。
4. 理事長および事務局長は、常任理事および理事の互選とする。
5. 会計および監査は、会長が委嘱する。

第6条 役員の職務は次のように定める。

1. 会長は、会務を総括する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代わる。
2. 理事長は、会務を執行する。
3. 事務局長は本会の事務を分掌する。
4. 常任理事は、理事長を補佐し、会務を分掌する。
5. 理事は支部を代表して本部との連絡にあたる。
6. 会計は、本会の会計を執行し、監査は本会会計を監査する。

第7条 理事会、常任理事会の運営については、次のように定める。

1. 理事会は、会長が招集し、会務を協議する。
2. 理事会は会長、副会長、理事長、事務局長、常任理事、会計及び監査をもって構成する。
3. 理事会は、委任状を含めて構成員の過半数で成立し、議決は、出席者の過半数の同意を必要とする。
4. 理事会は、年1回以上開催するものとする。
5. 常任理事会は必要に応じて理事長が招集、開催し、理事会の決定に従い、通常の会務を執行する。
6. 常任理事会は理事長、事務局長および常任理事をもって構成する。

第8条 役員の任期は1年とし、再選は妨げない。

第9条 支部長は、支部における事業の概要および会員の移動等について、毎年4月末日までに報告するものとする。

第10条 本会の運営費は、正会員会費（年額一口1,000円以上）と有志の寄付をもって充当する。

第11条 本会の会計年度は4月1日より始まり、翌年の3月31日で終わるものとする。

第12条 化学会会員名簿は、必要に応じて発刊する。

第13条 本会則の改正は、理事会において行うが、出席者の過半数の同意を必要とする。

付 則

本会則は、昭和56年5月30日から実施する。

平成元年7月22日一部改正

平成2年7月14日一部改正

平成11年6月26日一部改正

平成22年6月12日一部改正

平成28年6月25日一部改正

平成30年7月7日一部改正

令和6年12月7日一部改正

宮崎大学化学会役員名簿

2025.4.1

	役 職	氏 名	卒業年		役 職	氏 名	卒業年
本部	会 長	日高 宗徳	59	宮崎支部	支部長 理 事 " 		

支部だより 東京支部



支部長

田原修二

(58 年卒)

化学会の皆様、如何お過ごしでしょうか？

今年は、今のところ昨年までのようなコロナや大地震等、大きな災害や事故が発生せず、少し落ち着いた感じで来ていますね。しかし、復旧・復興は、なかなか進展が見られず、引き続き大きな課題として政府や自治体の取り組みが続けられているようです。ただ、今米騒動が話題ですね。昨年夏ごろから上昇が始まり、今では当時の2倍強。びっくりです。国の5kgを2,000円という動きが問題無く実現し、その後、安定してくれて令和の米騒動のようにならないことを祈ります。

さて、関東支部の活動は、例年6月に開催している、化学科だけではなく、工学部全体の同窓会（関東工学部同窓会）がビッグイベントです。昨年度は、化学科が幹事学科となって開催し、総勢100名の皆さんに参加して戴きました。関東工学部同窓会となってから、最も少ない人数ではありましたが、それでも100名ですから大盛況です。今年度は機友会が主幹事で、6/14（土）に開催予定です。場所をバトール東京という新しい会場に変えて行いますが、現時点120名以上の方々に参加して戴けそうで、土木関係が1/3のようです。今年嬉しいのは、入社5年以内の方々に16名

参加して戴けたことですね。化学科も1名。これから、こういう輪が広がっていくといいと思います。

毎年、話題というこの同窓会になるわけですが、その為に事前準備し皆さんに案内を出させて戴くわけですが、ただ、この同窓会に参加できる権利をお持ちの皆さん全員に案内を出せているかという、できていないと思っています。その理由は、会社都合いわゆる転職もあるでしょうし、自己都合、つまり転職の方も多くいらっしゃると思いますが、その際住所不明ではがきが戻ってきて、それ以降音信不通になっています。この場を借りてお願いですが、できるだけ新しい連絡先を教えてください。また、大学から化学会だよりを受け取っているけれども、同窓会の案内が来ない、という方は是非連絡を戴けると幸いです。

“はがき”と書きましたが、郵便関係の値上げもあり、昨年からメールでの連絡に切り替えしました。返信もQRコードを使ってできるようにしました。今の時代、わざわざはがきに書いて返信するよりも、携帯からピピッと返信が楽ですね。これからも皆さんの意見を反映し、より良いと思われる形にしていければと考えています。

最後になりますが、皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。また、皆さんからのご意見、アドバイス等もお待ちしております



関東工学部同窓会で乾杯の音頭をとる
日高化学会会長



関東工学部同窓会での一場面
(左井上工学部同窓会会長)

名古屋支部



支部長
原明男

(46 年卒)

化学会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。昨今、世界中を騒がせているトランプ関税、各国それぞれの思惑でアメリカの関係者と交渉中との報道がありますが、日本がどのような決着になるか今後の交渉によるでしょう。

また、最近、米価の高騰という事で、政府はいろいろな手を打っていますが、ここ 1, 2 年は、米に限らず、すべての物価が軒並み高騰しており、年金生活者は生活のやりくりで苦慮しているしだいです。

そういう中、今年も化学会名古屋支部会を 9 月 28 日(土)にいつもの名古屋駅の JR セントラルタワー「嘉鮮」で懇親会を開催しました。いつもは、7 名の方が出席いただけるのですが、体調不調との事で、今回は、全員で 5 名参加でした。いつもの様に連絡事項が終わりしだい、懇親会になりました。それぞれの近況報告となり、賑やかなうちに次回の参加を約し、終会となりました。また、中部工学部総会懇親会が 10 月 20 日(日)刈谷駅そばの D-Square(ディスクエア)で開催されました。(コロナ前に一度開催された会場でした。)今回も各学科同窓会支部総会のあと中部工学部総会・懇親会と進められました。工学部本部

来賓を含め、中部支部の化学会、土木会、電電会、Σ会、機友会の会員で総勢 50 名の参加でした。化学会本部からは、化学会会長 日高宗徳様、応用物質化学プログラム 教授 白上 努様と名古屋支部の会員 6 名の参加でした。化学会本部からは、近況報告があり、その一つとして応用物質化学プログラム→化学生命プログラムに改編されること、入試制度(地域枠、女子枠の設定など)の改革等、現時代に合った改革をなされているのだなどの印象でした。

さらに、名古屋支部の会員 6 名は、大学卒業後、どのような会社で、今、携わっている仕事内容又はすでに会社を退職された会員はどのような仕事をしてきたか、手短にお話ししていただきました。また、後日、中部工学部会長の世話をされてきた機友会の安川様が今回限りで退任され、次回から会長は。電電会の小森様に引き継いだとの連絡がありました。

最後に、化学会名古屋支部も年 1 回の名古屋支部総会を少人数ながらも継続してまいりました。私自身、名古屋支部長を任されて約 10 年あまりとなり、そろそろ後輩に支部長の交代を懇親会で提案したところ、後輩の高松昇司君(S63 年卒)が受けてくださり、令和 7 年度からは、名古屋支部長 高松昇司、副支部長 原 明男、副支部長 大杉 収 他は今まで通り、理事という構成でスタートすることになりました。名古屋支部の会員の皆様、化学会本部の皆様、今後ともよろしくお願いします。



中部工学部総会(R6. 10. 20)



名古屋支部会(R6. 9. 28)

福岡支部



支部長

牟田 惣彦

(H6 年卒)

化学会の皆様、いかがお過ごしでしょうか？身の回りでは、ライフラインである電気・水道・ガスやガソリンなどのエネルギー、食品の物価高騰、マイナス金利の解除、インバウンドの回復といった環境が目まぐるしく変化する日々が続いています。特に、昨年の猛暑や減反政策の影響でコメの生産量が大幅に減少し、価格の異常な高騰が発生し、令和の米騒動ともいえる問題が起きました。また、知事の内部告発や芸能人とテレビ局の重大なコンプライアンス違反が発覚し、企業や組織が法令や社会的規範、倫理を守ることの重要性を再認識させられました。

明るい話題としては、海外で活躍する日本のスポーツ選手たちの素晴らしいパフォーマンスが話題となっています。特に、大谷翔平選手はメジャーリーグで驚異的な成績を収め、サッカーの三笥薫選手はヨーロッパのリーグで素晴らしいプレーを見せています。彼らの活躍は私たちに勇気を与えてくれます。

外部環境もめまぐるしく変化しておりますが、私の環境も変わっております。2024 年 11 月より千葉県市原市の AGC 千葉工場内の事業所にて勤務しております。皆さんも広瀬すずさんの「素材の会社、AGC」の宣伝をご覧になったことがある方も多いと思います。AGC は世界最大のガラスメーカーですが、千葉工場では苛性ソーダ、苛性カリ、炭酸カリ、次亜塩素酸ソーダ、ガス・溶剤、フッ素樹脂・ゴム・フィ

ルム、撥水撥油剤など、さまざまな化学製品を製造しており、弊社は工場の運転業務やメンテナンス業務を請け負っております。現在、化学製品事業の増産要請を受けている状況です。

私は人事部を経験していることもあり、採用や労務管理の支援業務でしばらく駐在しております。せっかくですので、関東工学部同窓会に参加し、東京化学会の皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

福岡支部ですが、2024 年秋に開催されました工学部北部九州同窓会において総会を行いました。私は出席ができませんでしたが、当日は機械科に次ぐ参加人数で、白上教授、日高会長にもご参加いただき、盛会だったとのことでした。今年度より大きな会場に変更となりますので、多くの方にご参加いただきたいと思います。懐かしい思い出や近況報告を共有することで、私たちの絆がさらに深まることを願っています。

最後に、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。また、同窓会などでお会いできることを楽しみにしております。



工学部北部九州同窓会

宮崎支部



支部長

山下敏明

(60 年卒)

この度、宮崎支部長として任命頂きました 60 年卒の山下でございます。黒木前支部長には、長きに渡り宮崎支部を盛り立てていただきまして、感謝申し上げます。現在、都城高専に勤務しており、どれだけ宮崎支部ならびに化学会のお役に立てるか、わかりませんが、微力ながら尽力いたしますので、どうぞ宜しくお願いします。

さて、「サードプレイス」という言葉はご存知でしょうか。家や学校、職場とは違う第 3 の場所を指し、居心地が良くて自分らしさを出せる場所と、アメリカの社会学者オルデンバーグが提唱しています。「サードプレイス」の条件として、中立領域、平等主義、会話が主たる活動、常連・会員、アクセスしやすさと設備、控えめな態度・姿勢、機嫌が良くなる、第 2 の家という 8 項目があるそうです。「サードプレイス」に身を置くことで、新しい考え方と学びを得られる、共通の趣味の人と出会える、ストレス発散になる、仕事のモチベーションを維持できるなどの効果が得られるとあります。私は、化学会が、まさに「サードプレイス」の役割を果たしてくれるのでは

と考えています。化学会は、中学・高校の時のクラスの同窓会と異なり、縦の繋がりが大きいことと、また、全国に各支部をもつことから、老若男女問わず全国ネットで繋がるができます。化学会は「サードプレイス」として十分に機能するのではないのでしょうか。

先日、学生に、卒業後、同窓会に参加したいかと尋ねると、「いろいろな人の話を聞いてみたいので、参加したい」と、多くの学生が即答してくれました。「若い人は同窓会には興味を示さない」、これは思い過ごしかもしれません。若い人にとって、ワークライフバランスを維持するのははや普通のことですので、若い人にも化学会が「サードプレイス」の一つとして活用してもらえるのでは、と期待しています。私事で恐縮ですが、山登り、テニス、写真、クラシックギター、オーディオなどを下手の横好きで続けていますが、ほとんど一人で楽しむばかりで、共通の趣味の人に巡り合うことがありません。「サードプレイス」としての化学会を通じて趣味の世界を広げてみたいと思います。

今回は支部長を拝命したばかりで、私の考えをお伝えするだけになってしまいましたが、今回は、宮崎支部の活動報告をさせていただきます。最後に、大学卒業後、宮崎の地を離れられて、望郷の念に駆られておられる化学会員の方々もおられると思います。宮崎支部の勤めとして、宮崎県の様子を写真で紹介していきたいと思っています。



令和 7 年 3 月 23 日、志布志と都城を結ぶ地域高規格道路が全線開通(右奥は霧島連山)

特集 故塩盛弘一郎先生を偲ぶ

～自慢の後輩、そして尊敬する先生～

堤 信夫(61 年卒)

「怖い先輩だった」と私を人に紹介するときのあの笑顔、もう見ることはできません。

塩盛先生は私が大学 3 年の時の新入生。メガネ越しの爽やかな笑顔が素敵な二つ年下の可愛い後輩でした。当時の大学生は、先輩と後輩の主従関係ははっきりしており、とくに 3 年生は 1 年生からするとおっかない存在ではありました(今ではそれはパワハラと言うのかもしれません)。

塩盛先生が私のことを「怖い先輩だった」と思っていたことを聞いたのは私が 40 歳を過ぎた頃でしたが、その後私のことを現役の学生さんに紹介するときなどは笑いながらよくそう話されていました。

塩盛先生は学生時代から成績優秀で人柄も素晴らしい、先生方の信頼と期待も大きく、修士課程修了後一旦は企業にご就職されたものの、河野恵宣教授の助手となり宮崎大学にお戻りになられてからは、大阪大学での博士の学位取得を含み多くの輝かしい研究成果をあげられ、また学生にも熱心に教育をされるなど、宮崎大学の発展にご尽力され、その貢献が大であったことは今さら申すまでもありません。努力して母校の教授にまでお成りになられ、塩盛先生は私の自慢の後輩でした。

20 年前、私は博士課程に社会人入学。同課程を修了するまでの 3 年間、主指導教授の林幸男先生をはじめとする 5 名の学位論文審査委員の一人として塩盛先生からも温かく丁寧なご指導をいただき、また「分離操作特論」の授業もしていただきました。学生時代に怖がらせていた後輩が自分の先生

になるという、一見不思議な関係にはなったものの、先輩後輩の親しい間柄が変わることはなく、大学の外に出ると青春の再来かと勘違いするほど深夜までよく一緒に呑みそして歌いました。いつしか私も歌手のコブクロが大好きになるほど、塩盛先生からは十八番のコブクロの歌をたくさん聴かされました。すべてが懐かしく素敵な思い出です。

私は久光製薬株式会社で研究開発・知的財産・法務・コンプライアンス・生産環境・品質保証の職を経験し、また一橋大学の修士課程で経営法を学んでいることもあり、宮崎大学の博士の学位取得後に塩盛先生から工学部の非常勤講師を直々に依頼され、化学の 3 年生を対象に授業科目「技術者倫理」を母校への恩返しの気持ちで 15 年以上講義してきました。

塩盛先生は治療に専念するため休職されていましたが、久光製薬が佐賀県鳥栖市に建てた新研究所のオープニングセレモニーにご招待したところ、わざわざ宮崎からお越しいただき、その時は嬉しさとしりません。胸が一杯になりました。その 3 か月後、塩盛先生はご逝去されました。

塩盛先生がいない宮崎大学は、私にとって物寂しさはありますが、あの優しい素敵な笑顔を思い浮かべながら今年も講義します。辛く苦しい闘病生活の中にありながら最後まで先輩を大切にしてくれた私の自慢の後輩 塩盛君、そして尊敬する先生 塩盛教授。どうか安らかに眠りください。ご冥福をお祈りいたします。



1988 年 3 月 卒業の日(左先生、右筆者)



2023 年 9 月 フルーツパフェ(左筆者、右先生)



～塩盛弘一郎先生を偲んで～

宮崎大学工学部応用物質科学プログラムならびに宮崎大学工学部化学会の発展に多大なるご貢献を賜りました、塩盛弘一郎先生が2024年7月9日にご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、塩盛先生を偲んで筆を執らせていただきます。塩盛先生は、宮崎大学大学院工学研究科工業化学専攻を修了された後、1990年に三井鉱山株式会社にご就職されました。翌1991年3月には、宮崎大学工学部物質環境化学科・機能物質化学講座(当時の物理化学研究室)に助手として着任され、以後、1999年に大阪大学にて博士号をご取得、2001年10月に助教授、2007年4月に准教授、そして2017年4月には教授へと昇任されました。また、2002年にはスウェーデン・ルンド大学への留学も果たされ、私も国際学会の折に塩先生が所属されていた研究室を訪問させていただいたことがございます。

塩盛先生は、350報を超える論文・著書、680回を超える講演・口頭発表という輝かしい研究業績を残され、10件に及ぶ学会等での受賞歴をお持ちです。研究分野は多岐にわたり、「抽出分離に関する研究」、「マイクロカプセル・微粒子の調製と応用」、「不飽和脂肪酸の酸化速度」、「焼酎の製造技術」などを中心に、地域との連携による応用研究にも力を注がれました。特に、宮崎県内

清山 史朗 (H4 年卒)

の建設会社と連携し、焼酎廃液から高効率で燃料用エタノールを抽出する国内初の技術を開発されたほか、宮崎県美郷町の幻の日本酒「いすゞ美人」の復活にも尽力されるなど、地域貢献にも積極的に取り組まれました。

私にとって塩盛先生は、尊敬する先輩であり、師であり、研究の重要なパートナーであり、何よりも信頼のおける相談相手でした。塩盛先生は週に一度、私の勤務先に非常勤講師としてお越しになり、授業後には研究の話題から、恩師の近況、時には私の愚痴にまで耳を傾けてくださいました。また、家族ぐるみのお付き合いをさせていただきました。私の結婚前には、長男の誕生日やクリスマスにプレゼントを持ってご自宅へ押しかけ、夜遅くまで語らい、翌朝には長男とキャッチボールをしたことが今でも心に残っております。私の結婚式では媒酌人をお引き受けいただき、ご家族揃ってご出席くださいましたことは、忘れがたい思い出です。

先生のご逝去は誠に痛惜の極みであり、今はただそのご功績を偲び、深く感謝の意を表するばかりです。塩盛先生、長年にわたるご指導とご厚情に心より御礼申し上げます。どうか安らかに休みください。



左から2番目筆者



後列右から4番目筆者

プログラム近況報告

令和6年度プログラム長 井澤 浩則

令和6年度のプログラム長を担当した井澤浩則と申します。令和4年度に応用物質化学プログラムの教授として着任し、まだ3年目の若輩者でしたが、プログラム長という大役を仰せつかりました。日常的に重要なメールを見逃し、会議もすっぽかす常習犯なのですが、『プログラムに迷惑をかけてはいけない!』と、メールチェックと予定確認に気を遣う毎日でした。1年間を振り返ってみようと思います。

4月に65名の1年生を迎えて新学期が始まり、恒例行事として4月4日に新入生オリエンテーションが開催されました。そこでの挨拶がプログラム長初仕事だったと思います。学生時代、ありあまる時間を有意義に使わなかったことに後悔があるので、毎年、新入生には、大学生活における時間の使い方の大切さを話しています。プログラム長の挨拶でも同じような話をしました。後悔のない有意義な4年間を過ごして頂きたいものです。

私が着任した令和4年度は、コロナ禍の終盤戦、歓送迎会や懇親会の文化が日本中でかなり稀薄になっていた頃で、私の歓送迎会はありませんでした。一抹の寂しさを感じていましたが、よくよく話を聞くと、コロナ禍に入ってからプログラムでアルコール有の歓送迎会や懇親会はやっていないとのことでした。新任教員も歓送迎

があった方がプログラムに馴染みやすいだろうと思い、プログラム長権限で歓送迎会の復活を提案しました。そうすると、あれよあれよという間に話が進み、これまで実施されていなかった私を含めた4人分の歓送迎会を同時に開催することになりました。いい研究をしようとする地方大学においては、教員間での助け合いは、必須だと感じており、外様の私としては、なかなか話す機会のなかった先生方とも親睦を深められました。提案して非常によかったと思います。

プログラムの一大事として、工学部A棟の大規模改修がありました。7月後半から8月初旬にかけて、猛暑の中での、仮移転先へ引越し作業では学生ともども大汗をかきました。大部分の研究室が農学部棟、教育学部棟、創造研究棟に移動し、不便な中での研究を強いられた一年でしたが、修論発表・卒論発表では、どの研究室も例年と遜色ない発表をしており、みなが工夫をしながら乗り切った一年であったことが伺えました。

現在(令和7年6月)は、大規模改修の復路も終わり、新しいA棟にて原稿を書いています。喉元過ぎれば熱さを忘れる状態ですが、大きな事故も無く無事1年間、プログラム長のお役目を全うできたのは、教職員や学生さんのみなさまのご協力のおかげです。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

教員名簿

(令和7年4月1日現在)

組織	教授	准教授	助教
化 学 生 命 プ ロ グ ラ ム	井 澤 浩 則 大 島 達 也 奥 山 勇 治 酒 井 剛 努 白 上	稲 田 飛 鳥 宇 都 卓 也 菅 本 和 寛 鍋 谷 悠 悠 廣 瀬 遵 樹 松 永 直 樹 松 根 英 樹 松 本 仁	宮 武 宗 利
工 学 基 礎 教 育 セ ン タ ー		大 榮 薫	

菅本研究室

准 教 授 菅 本 和 寛

今年から宮崎大学化学会本部の理事長に就任いたしました菅本和寛（平成3年卒）です。今後の化学会の発展に微力ながら寄与していきたいと思っております。化学会の皆様の一層のご支援ご指導どうぞよろしくお願いいたします。

2025年度は菅本研究室に修士学生7名、学部学生5名が在籍しております。スタッフとしては技術職員の金丸慎太郎さん（平成19年卒）と事務員として日高（旧姓小玉）亜季さん（平成17年卒）の化学会のメンバーに助けてもらいながら研究室を運営しております。

研究室のメインテーマは有機化学で大きなテーマ以下の3つです。

1. 有機触媒を用いた環境調和型有機合成法の開発

現在、有機触媒として超原子価ヨウ素などに注目して環境調和型（環境に優しい）新規酸化反応などの開発中です。既に酸素酸化反応、固体触媒やイオン液体を用いた触媒をリサイクルできる反応、マイクロ波を用いた超効率的反応を開発しています。

2. 天然資源を原料とした生物活性物質の合成

クロロフィル由来のフィトールを原料にして光学活性な分岐鎖脂肪酸の合成を検討しており、独自に開発した環境調和型有機合成法を鍵反応に用いて合成例のない光学活性な天然分岐鎖脂肪酸の合成に成功しています。このテ

ーマは宮崎大学農学部との共同研究で実施しています。

オビスギに多く含まれるジテルペンを木材加工工場の廃棄物から容易に取り出すことに成功しており、このジテルペンを原料に様々な生物活性物質への変換を検討しております。このテーマは宮崎県木材利用技術センターとの共同研究で実施しています。

3. 宮崎県産植物資源の有効成分の分離と新規有機合成反応の開発

宮崎県産ブルーベリーの葉や茎のポリフェノールに注目し。複雑なポリフェノールの構造解析・効率的分離方法・有効利用法を調べている。このテーマは宮崎大学農学部との共同研究で実施しています。

宮崎に自生するヒュウガトウキは他の植物には含まれない固有のクマリン類が含まれています。最近、ヒュウガトウキから新規に単離し、構造を決定したクマリンを Hyugani G と Hyuganin H と我々が命名しました。このテーマは、研究・産学地域連携推進機構 研究基盤支援部門の松本朋子先生（平成17年卒）、廣瀬遵先生と宮崎県の企業と共同研究で実施しています。

以上の様に、現在実施している研究は、共同研究が多く、多くの化学会の皆様に支えていただきながら研究を進めております。



令和6年3月修了生・卒業生修論・卒論題目

<大学院>

氏名	論文題目	指導教員
伊藤 章博	界面修飾多孔質高分子微粒子の調製とリン脂質膜のキラル認識吸着への応用	塩盛
稲吉 秀次朗	シュードモナス属細菌の α -トルイル酸分解経路をコードする遺伝子群の機能解析	廣瀬
井本 涼太	太陽電池パネル廃ガラスのアルカリシリカ反応の進行解明と抑制方法の開発	塩盛
岩田 裕生	新規光応答性ナノスクロールの作製と光伸縮運動機能	鍋谷
岩本 成瑠	三価カチオンP-ポルフィリン錯体の可視光殺菌活性に対するオキサアルキル基導入効果	松本
牛崎 そら	深共晶溶媒によるレアアースおよび貴金属の特異的抽出分離に関する基礎的研究	菅本
大倉 颯太	酵素を内包した多孔質カプセルの高活性化に関する研究	宮武
大場 朋大	粘土ナノシートに吸着したカチオン性スズポルフィリン錯体の光電子移動反応	白上
小倉 楓麻	S/O/Wエマルションの液中乾燥で調製した単核マイクロカプセルへの金属抽出剤の内包と金属抽出への応用	塩盛
甲斐 大晴	ジスルフィド結合からなる高分子微粒子の開発と機能評価	松根
後藤 楓	糖を軸配位子に連結したリンポルフィリン錯体の合成と光機能性	松本
坂口 ななえ	細胞膜モデルとしてのリポソームを用いた多価カチオン可視光増感剤の大腸菌との親和性評価	松本
佐々木 勇斗	活性酸素種で活性化される生物発光プローブの開発	白上
篠田 瑞希	抗癌剤キャリアとなる新規両親媒性ペプチドの開発と評価	大島
鈴木 耀介	ブルーベリー葉と茎に含まれるプロアントシアニジンの簡易分離法の検討と分離物のATL細胞増殖抑制効果	菅本
田島 航	グアニジル化ナノキチンの開発	井澤
田原 舞友花	アルカリフォスファターゼ内包シリカナノカプセルの調製と反応速度解析	松根
中井 朋香	フェルギノールからキノン型およびカテコール型ジテルペン類への変換とその活性評価	菅本
橋詰 満衣	機械学習を活用した塩酸系からのGa(III)抽出溶媒の開発と分離特性の評価	大島
濱砂 幸人	チタン酸ナノシートを用いた光運動材料の開発	鍋谷
古川 美紅	ポリオールを有する架橋キトサンナノファイバーの半金属吸着特性	大榮
堀江 慶太	含硫アミノ酸/層状複水酸化物複合体による重金属の吸着特性	大榮
森 竜馬	酸性pH活性化リンポルフィリン光増感剤のがん細胞に対するPDT活性	松本
八明 良弥	スズ-N-混乱ポルフィリン錯体を増感剤とする一重項酸素生成反応	白上
山口 滉太	光学活性なジヒドロフィトールの調製の検討と光学活性なフィタン酸合成への応用	菅本
山元 祐次郎	ビフェニル/PCB分解性細菌の芳香族カルボン酸分解系遺伝子群の発現誘導に関する研究	廣瀬

<学部>

氏名	論文題目	指導教員
安達 天	エーテル酸素原子を側鎖に有するピロリジニウム型イオン液体の計算化学研究	宇都
長友 鳳潤	リン酸エステル抽出剤による13族金属の抽出に対する希釈剤の影響	大島
永山 欧佑	多孔質リン脂質粒子の複合化によるタンパク質マイクロカプセルの徐放制御	塩盛
西本 凱斗	NMRによる日向夏由来アラビノガラクトンの構造解析	宮武
福元 健太	未修飾テトラペプチドと金属イオンの相互作用に基づくメタロ超分子ゲルの開発	稲田
荒木 愛斗	ピフェニル/PCB分解性細菌のサリチル酸初発酸化酵素の機能解析	廣瀬
荒木 美穂	グアニジル化キトサンライブラリの構築	井澤
池之 寛人	新規遺伝子導入剤の合成に向けたグルコサミン塩酸塩内包シリカカプセルの調製	松根
池村 広飛	フィトールからプリスタン酸への変換とプリスタン酸のジアステレオマーの分割	菅本
石川 真央	ウシ血液水溶液への可視光照射によるルミノール発光反応の加速効果	白上
井上 舞香	ゲルマニウム-N-混乱ポルフィリン錯体とアスコルビン酸との光電子移動反応	白上
上田 大翔	温度レプリカ交換法による多糖分子鎖の多重らせん構造形成シミュレーション	湯井
上田 航	キラル構造を有する新規多フッ素化アルキルアゾベンゼン合成の検討	鍋谷
榎木 翔也	有機性廃棄物中に含まれる α -トルイル酸の検出と微生物分解	廣瀬
大木場 慧	イミダゾリウム型イオン液体中におけるセルロース溶解機構の計算化学研究	宇都
大西 鈴音	生物発光共鳴エネルギー移動を利用した赤色生物発光システムの構築	白上
小野田 一成	細胞膜表面における両性イオン型高分子のダイナミクス挙動	宇都
上土井 晴輝	リン脂質担持多孔質微粒子によるL-トリプトファンの吸脱着特性	塩盛
川崎 来夢	ニオブ酸ナノスクロールの光伸縮運動における温度の影響	鍋谷
菊地 未紗	酸性・還元条件に応答する薬物送達キャリアの開発	稲田
木村 悠希	新規抽出剤である3,5-di-tert-butylsalicylic acidによる深共晶溶媒の創出と酸性溶液からのIn(III)の選択的抽出	菅本
清川 昌吾	組成比の異なる層状複水酸化物による水溶液中からのヒ素の吸着特性	大榮
桑畑 朋幸	水溶性を示すポリエチレングリコール-graft-グアニジル化キトサンの開発	井澤
篠原 千尋	食品由来ペプチドと複合化したリノレン酸の水分散性評価	大島
渋谷 愛斗	<i>Aspergillus niger</i> 由来グルコアミラーゼの糖結合ドメインの基質認識	湯井
島廻 光希	軸配位子にピペラジニル基を有するリンポルフィリン錯体のpH応答特性	松本
新地 友美	多孔質マイクロカプセルのナイロン膜による酵素の固定化への影響	宮武
杉田 優奈	リンポルフィリン錯体の水素化によるクロリンおよびフロリン類への変換とその光増感作用	松本
須磨 美月	超原子価ヨウ素を用いたスギオールの o -キノン体への変換	菅本
高木 敬祐	シリカ被覆トレハロース粒子の調製と溶解吸熱の効果	松根
土谷 修史	タングステン酸ナノシートと多フッ素化アルキルアゾベンゼン誘導体の複合体作製	鍋谷

< 学部 >

氏名	論 文 題 目	指導教員
寺原 百花	キラルナノ構造構築を目指した新規多フッ素化界面活性剤合成の検討	鍋谷
徳田 光希	網目状骨格を持つ高分子微粒子による動的分子捕集能の検証	松根
長浦 翔	SARS-CoV-2メインプロテアーゼー阻害剤のドッキング計算	宇都
中島 弘貴	カゼインベース材料の可能性検証	井澤
中田 三智	ルミノール化学発光を利用したウシ赤血球の脆弱性評価	白上
長嶺 一毅	<i>Trichoderma reesei</i> 由来セロビオヒドロラーゼの糖結合性モジュールによる基質認識における糖鎖の影響	湯井
西川 亮也	インジウムトリフラート触媒を用いた種々の糖類の5-ヒドロキシメチルフルフラールへの変換	菅本
西村 春陽	ガティガムに含まれるアラビノガラクトタンプロテインの酵素分解による構造解析	宮武
橋口 大輝	鶏冠コラーゲンの抽出と材料化	井澤
長谷川 雄大	2'-Octoxyacetophenoneおよびその類縁化合物によるGa(III)の抽出特性	大島
長谷部 智大	多重らせん形成多糖類分子鎖構造の膨潤に伴う自由エネルギー変化量	湯井
濱上 真成	粒子状疎水性クライオゲルの調製とリン脂質含浸担持によるアミノ酸の吸脱着特性	塩盛
濱川 光平	ジスルフィド結合からなる高分子微粒子合成の反応機構の解明	松根
林田 和也	S/O/Wエマルションの液中乾燥で調製したキシリトール内包マイクロカプセルの内包特性	塩盛
林田 真希	アミノ軸配位子を有するリンポルフィリン錯体の光殺菌活性に対する液胞型プロトンATPase阻害効果	松本
光 遼太郎	ニッケル-N-混乱ポルフィリン錯体を増感剤とする一重項酸素生成反応	白上
日高 祐誠	ビフェニル/PCB分解性細菌における芳香族化合物代謝遺伝子の発現レベル解析	廣瀬
藤川 大雅	糖ピラノース環の立体電子効果に関する量子化学計算	宇都
藤原 朋貴	脂溶性リンポルフィリンのリボソーム固定化による可視光増感一重項酸素発生	松本
藤本 梨花	固体アルカリ粉末を内包したS/O/Wエマルションの液中乾燥によるマイクロカプセルの調製	塩盛
牧原 海大	酸性リン酸エステル系抽出剤によるIn(III), Ga(III), Zn(II)の抽出特性	大榮
眞下 龍世	含フッ素アミド類から構成される深共晶溶媒の電解液特性	宇都
屋宜 楓香	ブルーベリー葉・茎の熱水抽出物に含まれるフラボノール配糖体の分析とプロアントシアニジンとの分離	菅本
矢野 海竜	ナノスクロール反応場における金ナノ構造体の形成メカニズム	鍋谷
横田 裕樹	複数目的変数を用いた機械学習によるAu(III)抽出溶媒の開発	大島
吉村 凱聖	メソ位フェニル基にテトラエチレングリコール部位を有するBODIPY誘導体の合成と分光学的特性	松本
上原 由楓	環境浄化に寄与する緑膿菌ゲノミックアイランドの探索	廣瀬
土井 悠理乃	グルコースオキシダーゼ内包シリカナノカプセルの開発と反応速度解析	松根
宮添 光	大環状アミロースの水和構造	湯井

令和6年3月修了生・卒業生就職先一覧（順不同）

<大学院>

():学生数

太平洋セメント(株)(2)	沢井製薬(株)	日清紡マイクロデバイスAT(株)
キュービー(株)	旭化成(株)	ソニーセミコンダクタ(株)(2)
日本グリース(株)	宮崎エプソン(株)	ミナリスメディカル(株)
(株)SUMCO	アルプス薬品工業(株)	KMバイオロジクス(株)
(株)タカギ	(株)日産アーク	日東電工(株)(2)
三島光産(株)	日本コークス工業(株)	デンカ(株)
日本パーカライジング(株)	(株)テクノプロR&D社	富士フィルムワコーケミカル(株)
(株)アムコー・テクノロジー・ジャパン	日揮ユニバーサル(株)	

<学部>

():学生数

コカ・コーラボトラーズ・ジャパン(株)	ニチハ(株)	(株)西松屋
(株)クリタス	SUNAO製薬(株)	旭有機材(株)
九州公営(株)	EVAND(株)	東洋製罐ホールディングス(株)
(株)長嶺建設	AGCエスアイテック(株)	太平電業(株)
(株)テレビ宮崎	(株)環境総合リサーチ	日本データスキル(株)
宮崎大学大学院工学研究科(31)	九州大学大学院(3)	東京工業大学大学院
広島大学教職大学院	日揮ユニバーサル(株)	東郷メディキット(株)(2)
(株)高田工業所	第一高周波工業(株)	富士フィルムワコーケミカル(株)
奈良先端科学技術大学院大学		



2024年度 在校生より

充実の研究室生活

工学研究科工学専攻環境系コース2年 門川雄大

宮崎大学での6年間の大学生活を振り返ってみると、公私ともに充実した生活を過ごすことができました。特に、研究室に配属されてからの3年間は私自身を成長させてくれた貴重な時間だったと感じています。

研究室では「酸性抽出剤による金属抽出分離における中性配位子共存の影響検討」という研究テーマで取り組みました。金属の分離回収において、中性化合物の共存が酸性抽出剤による金属抽出への影響を検討している研究例はほとんどなく、誰も行っていない研究テーマに携われるというワクワク感がありました。しかし、

そのワクワク感とは裏腹に、実験を重ねる中で何度実験しても思うような結果が出ずにネガティブ思考になる時もありました。始めはそのような結果に対してただ落ち込むだけでしたが、



前列一番右筆者

「なぜそのような結果が出たのか」と結果に対して向き合うことで新しい発見ができ、次第に研究が楽しくなっていました。これも研究の醍醐味の一つなのだなと感じました。

研究室で過ごした3年間はかけがえのない時間でした。このような充実した生活を送ることができたのは、環境に恵まれたからだと思えます。研究のアドバイスや過ごしやすい研究室の雰囲気を作ってくれた先輩方や苦楽を共にし、公私ともに充実した生活を送るのに誰一人欠かせなかった同期、よく相談にのってくれた後輩、みなさんに感謝しております。また、3年

間お忙しい中、研究や就活など、多岐にわたって支えてくださった先生方には本当に感謝しております。

大学生活で学んだことや体験したことは、今後の人生においてきっと役立つものだと思います。大学生活は、自分自身を知ることや向上するためのとても貴重な時間でした。私は、4月から社会人になりますが、これまで支えてくれた方々に感謝の気持ちを忘れず、宮崎大学で6年間学んできた知識と経験を糧にして頑張ります。

宮崎大学での4年間

私は大学への進学を機に一人暮らしという新たな環境に身を置くことになりました。さらに、入学当初は新型コロナウイルスの流行の影響で入学式がなく、講義もほとんどがオンラインで行われていました。そのため、一人でいる時間がとても長くなり、毎日どこかに少しでも孤独を感じるようになりました。同時に、交友関係を築いていけるか不安が募りました。しかし、プログラム全員で講義が行われ、登校する日は隣に座る友人や同じ班になった友人など多くはなくとも、交友を深めることができました。

私の大学生活で一番印象に残っているのはバイトでした。私はサークルや部活に所属していなかったのでバイトに打ち込んでいました。高校生の時はすることができなかったのが初めてのバイトでは仕事をこなしていけるかなり不安でした。しかし、長く続けている先輩や同期など多くの人のもとで学びました。3年生になると、先輩方が卒業し、私がバイトリーダーになりました。私の行動全てに責任が伴い、最初のうちはかなり窮屈に感じていました。しかし、卒業された先輩方や仲のいい後輩に何度も励まされ夏休みには店長にも認めてもらえるバイトリーダーにまで成長できました。チームワークはもちろん、ひたむきな努力が結果に

工学部応用化学プログラム4年 恒松 海音

つながる達成感とチームを統率する責任感が身につきました。

4年生になると研究室に配属され、これまで以上に化学分野と向き合う時間が長くなりました。今年は工学部の改築工事が行われていたため、1年のうち半分は研究室の機材等の引越しを行い、同時進行で私が行う研究について文献等を利用して調べていました。これまでに聞いたことがない内容だったので最初のうちは何を調べたらいいのかわかっていませんでした。しかし、研究室に私含め2人しかいなかったのも先生や同じ研究室の方との相談を密に行うことができたのは幸いでした。実際に実験に取りかかり、何度も自分が行っている実験の意味などを考え直し、考察を深めていきました。私は4月から高校の教師になります。大学での4年間と多くの人との出会いを忘れずにこれからも成長していきたいと思います。



右側筆者

「私と仕事と私生活と」

富士フィルムワコーケミカル株式会社 土井良 俊輔 様

令和 6 年 11 月 15 日（金）、卒業生による特別講演会が学部 3 年生と修士 1 年生を対象に「教員と学生の懇談会」と合わせて開催されました。平成 21 年に本学物質環境化学専攻を修了され、富士フィルムワコーケミカル株式会社に就職された土井良俊輔 氏に「私と仕事と私生活と」のタイトルで講演をしていただきました。会社の概要、ご自身の学生時代の経験、就職活動および現在の仕事の内容とやりがいなどを、ユー

モアを交えて楽しい講演をしていただきました。ご講演、ありがとうございました。

（文責：菅本和寛）



2023 年度卒業式

令和 6 年 3 月 22 日（金）、宮崎市のフェニックス・シーガイア・リゾートシーガイアコンベンションセンター4F サミットホールにおいて、令和 5 年度宮崎大学卒業証書・学位記・修了証書授与式が挙行されました。その後、学科別に分かれて卒業懇談会が実施されました。卒業生の皆様は、これから社会へと

旅立って行かれますが、健康には十分気を付けて活躍してくれることを期待しております。何か困ったことがありましたら、大学の先生方に連絡をとってみてください。また、化学会の先輩方が周りにいるかもしれません。探して、相談してみるのもいいかもしれませんね。



2023 年度 卒業式学科集合写真
（令和 6 年 3 月 22 日 シーガイアコンベンションセンター）

2回目(「清武と鉄肥の時代」「江戸の時代」「明治の時代」の3回シリーズ) 宮崎市の偉人「安井息軒」を もう一度見つめ直してみませんか

NPO 法人安井息軒顕彰会副理事長兼事務局長 黒木幸英(45年卒)

前会報から「安井息軒の生きざま、すごさ」を紹介していますが、今回は第2回の「江戸の時代」です。

江戸での安井息軒

○「文会」を主宰

幕末の天保年間、息軒は家族を伴い江戸に移住して三計塾を開塾、幕府直参にまで上り詰めました。その間、自ら漢書を読み解き、さらに幅広い知識を習得するため、恩師の紹介などで得た友人らを集めて「文会」を主宰しました。

現宮崎大学特任准教授の青山大介氏は息軒<文会社約>釈読(案)の中で次のように述べています。「移住後まもなくして、塩谷宕陰、吉野金陵、木下犀潭、羽倉簡堂、藤森洪庵ら5人と共に月に一度互いに自分の考えを持ち寄り批評しあう「文会」なる一種の文芸サロンを立ち上げた。その後文会には藤田東湖、林鶴梁、重野安繹、川田剛などが参加。しかし、この社約を読む限り文芸活動を目的とした集まりであり、政治結社や学術研究グループの類ではなかったようだ。」

息軒は「文会」等を通じて人脈を築き、私塾である「三計塾」には幕府を支えた諸藩だけでなく、倒幕の柱ともなった土佐、長州、薩摩等の諸藩からも多くの門人がいます。

○息軒と水戸藩主 徳川斉昭

江戸後期になると幕府は外国船来航対策に困窮し、軍政改革参与の座にあり、攘夷論者である斉昭は東湖(水戸藩の学者)を介して息軒に時事を問うことになりました。息軒は東湖を介して斉昭に、「足食足兵民信之矣」(食料と兵力をそなえなければ国はなりたない)と答えています。(宮崎市安井息軒記念館に書軸等が展示してありますので是非見学してください。)

○息軒が昌平坂学問所儒官に任命「文久の3博

士と呼ばれる」

文久2年(1862年)9月に將軍家茂に接見、12月に幕府の御儒者を言い渡され、翌年2月幕府直参になりました。息軒の登用は、今までの林門(朱子学派)からとは異なり、古学、考証学を中心に据えながらも、幅広い視野を持って学問を探究し、自己を貫いてきた息軒の時勢に対する判断が求められた瞬間でした。同時に僚友の塩谷宕陰、吉野金陵も任命され、「文久の3博士」と称されました。

息軒はその後も、老中を務めた堀田正睦や板倉勝静、小笠原長行、さらには学問所奉行秋月種樹(高鍋藩)等と交流を深めながら、外交や内政に対して様々な進言を行っています。

しかしながら、黒船来航以来の、幕府の権威が低下したことで、朝廷の力が強くなり、倒幕運動が起こり、坂本龍馬、徳川慶喜、勝海舟、西郷隆盛、岩倉具視らによる王政復古と無血開城が行われました。

息軒はその間でも三計塾を開塾し、討幕派や佐幕派等様々な考えを持った塾生がいました。戊辰戦争時には、弟子たちの進めに従って、家族の安全を考慮し、慶応4年(明治元年、1868)3月13日から9か月間、足立郡領家村(埼玉県川口市)に疎開しました。

いよいよ明治時代に入ります。息軒の体は日増しに悪化する一方、三計塾はますます盛況をきわめて行くのですが・・・。

次回「明治の息軒」をご期待ください。

..... あとがき

ここに会報No.38をお届けします。ご協力いただきました方々に心よりお礼申し上げます。会報発行が遅くなりまして誠に申し訳ございませんでした。

これからの会報の内容充実を図り読み易いものにするために何かお気づきの点がありましたら、化学会本部事務局までご連絡頂けましたら幸甚です。

最後に皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

令和7年10月 編集委員一同